

## 秋田県障がい者スポーツ指導者協議会

広報

## チャレンジ!

平成31年3月31日発行  
 秋田県障がい者スポーツ指導者協議会  
 TEL 010-0922  
 秋田市旭北栄町1番5号  
 (秋田県障害者スポーツ協会内)  
 TEL 018-864-2750  
 FAX 018-874-9467  
 E-mail:shidousha@akita-sports.jp



※実技研修会の様子



※総会の様子

## あいさつ

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会

会長 米山 隆

平成30年度も残すところわずかになりましたが、会員並びに関係者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

✓ 今年度も多くの方々のご支援を頂きながら事業をおこなうことができましたことに感謝申し上げます。

さて、当協議会では会員の交流を図り、資質の向上と会員相互の理解を深めるとともに障がい者スポーツの普及・振興に寄与することを目的に活動してきました。今年度も実技研修会の開催や各種スポーツ教室への講師派遣、大会への役員派遣など年間の派遣者数等は300人(延べ)となっており、多くの会員のご協力によりまして活動してまいりました。特に1月26日開催しました指導者研修会では東北ブロックの事業の協賛を頂きながら基調講演やグループワークなど今までの研修会と若干異なる内容でしたが、東北管内から多くの方々が参加していただき盛会に終えることができました。特に研修内容等については「研修部」が担当し、「情報部」「指導部」との連携を図りながら事業の展開ができましたことに今後の活動する上で大きな力となりました。

さて、2019年、間もなく平成から年号が変わります。そして東京パラリンピックまで残すところ1年余りとなりましたが、障がい者スポーツに対してマスコミ等でも大きく取り上げられ、国民の障がい者スポーツへの関心も非常に高まってきております。また、大会ボランティアについても募集を大幅に上回っていると聞いております。我々指導者は大いに歓迎するとともに大会が成功裏に終えることを期待しているところであります。その一方で、障害を持って在宅で生活されております方々にスポーツを通じて社会復帰を目指すためにも、私ども障がい者スポーツ指導者の役割は大きなものを感じております。いずれにしても我々指導者は身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ生涯スポーツの支援に力を注ぐことも大切と思っており、今後多くの皆さんのご支援を頂き活動していきたいと思っております。

## 軽スポーツレクリエーション大会

秋田県身体障害者福祉協会総務企画課課長 高橋 正喜

県内 11 市町村協会から 142 名の参加のもと、平成 30 年 9 月 29 日（土）秋田県社会福祉会館内の展示ホール及び体育館で開催しました。

競技は、団体戦の卓球バレーに 7 市町村協会から 11 チーム、個人戦のフライングディスク「アキュラシー」に 9 市町村協会から 46 名の出場があり、日頃の練習の成果を一投一打に込め競技をしていました。競技中の選手の皆さんからは、心地よい汗や自然にこぼれる笑顔が見られ、心身ともに楽しんでいるようでした。

閉会式では、卓球バレー並びにフライングディスク「アキュラシー」の栄誉を称え表彰が行われ、賞状と記念品が贈されました。

### 競技結果

#### ◎卓球バレー

- 1 位 秋田市 はまなすB  
2 位 秋田市 はまなすA  
3 位 男鹿市 なまはげA



#### ◎フライングディスク（アキュラシー）

A組	1位	松井 義廣	2位	阿部 昭広	3位	樋口 スチ子
B組	1位	小坂 松也	2位	佐々木 純一	3位	佐々木 絹子
C組	1位	佐藤 美智男	2位	田口 志郎	3位	安倍 祐美子
D組	1位	伊藤 國夫	2位	鈴木 勇	3位	佐藤 昭蔵
E組	1位	福田 清廣	2位	岡田 徳子	3位	平沢 勝美
F組	1位	松森 節夫	2位	細田 義夫	3位	伊東 勇一
G組	1位	柴田 良	2位	市川 吉五郎	3位	大友 リエ
H組	1位	伊藤 修一郎	2位	伊藤 英紀	3位	山中 易廣



得点で笑顔になる卓球バレー



この一投が勝負！フライングディスク

## 報告

## 振り返って そして 元年度へ

副会長兼事務局長 佐 藤 凉 子（秋田市）

今年度も当協議会は、多くの方々のお力を拝借しながら事業計画はほぼ終了することが出来ました。当協議会の活動に対する皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、今年度も当協議会では障がい者スポーツ指導員のスキルアップを図り、障がい者スポーツの普及・振興に寄与することを目的とし、年2回の実技研修会、各障がい者スポーツ団体へ指導員の派遣、各種講習会の周知等研修の場、活動の場を情報提供させて頂きました。

今年度の主な事業は東北各县の障害者スポーツ協会・指導者協議会の会員が一堂に会し、連携を図ると共に各県の情報交換や、指導員の資質と指導力の向上を目的とした【第2回実技研修会兼東北ブロック障がい者スポーツ研修会】を開催いたしました。研修内容は第1部「基調講演」2部「グループワーク」2名の講師のご指導を頂きました。

仙台市から前泊でご参加いただいた方は「研修内容がとても参考になった、参加して本当に良かった」と感謝を述べていました。今後も指導力、視野を広げてゆく研修会を重ねて行くことは、極めて重要な活動のひとつであると思いました。新年度も会員皆様のリクエストを取り入れながら計画してまいりたいと思います。

今年度は役員改選にあたり、永年当協議会の運営にご尽力頂きました、副会長、小森一昭氏（秋田市）、同、高野勲氏（由利本荘市）、理事、小笠原行氏（大館市）の方たちが退任されました。皆様にはこれまでの任務に心よりお礼申し上げます。今後もご指導とご協力を宜しくお願い致します。新役員は別記させて頂いております。

元号が変わる新年度は沢山の経験を積み、充実した1年になりますよう、事務局も微力ですが、多くの皆様のご協力とご支援を頂きながら役割を果たしていきたいと思います。

## 報告

## ボッチャ競技に魅せられて

障がい者スポーツ指導員 鈴木 義則

私は障がい者スポーツ指導員を、平成23年11月初級登録を致しました。その後8年経過しましたが、年2回の実技研修会には出席し会員との交流に努めてきました。登録する以前から毎年開催される秋田県障がい者スポーツ大会の陸上競技の審判をしておりますが、その中にスラローム競技というのがあり、この競技のルールを勉強したいとの思いが指導員となるきっかけでした。

この間、サウンドテーブルテニスこまち大会等にお手伝いしておきましたが、昨年2月県障がい者スポーツ指導者協議会主催のボッチャ研修会に参加してから来年のパラリンピック正式種目となるボッチャ競技に興味をもち、その後昨年の実技研修会、特別支援学校体育連盟の総合体育大会等の審判など、さらには県障害者スポーツ協会主催のスポーツ教室にも数回参加するようになりました。

このボッチャ競技については、昨年12月東京パラリンピック2020事前キャンプ地に大館市とタイ国が調印し一躍脚光を浴びましたが、男女・年齢の区別なく障がい者と健常者との枠を超えた誰でも参加できるスポーツとして今後ますます関心が高まる競技と言われております。

そんな中、もっと資質の向上を図る必要があると考えて今年1月には盛岡で実施された日本ボッチャ協会主催の日本代表井上ヘッドコーチを迎えてのボッチャサポーター講習会に秋田県からは私1人の参加でしたが、受講し研鑽してきました。

まだまだ諸先輩に比べて駆け出しだすが、常日頃思うことは、自分がこうしてお手伝いできることを幸せと感じ自分のできる範囲で精一杯のお手伝いをしたいと考えております。

この4月には、秋田県ボッチャ協会が立ち上がると聞いておりますので、今から練習会にも参加し協力したいと思っております。

資格登録後活用できないでいる皆さん、「時間」はどんどん過ぎていきます。そのうちと考えていても、なかなか難しいことですが、忙しい中から時間を見つけていろいろな競技に興味を持ち参加して自分を高めていってはいかがでしょうか。

やはり、「いつかやろう」「そのうち」「時間があれば」では、いつまで経っても前には進みません。常に目標を持ち、その目標に向かつて進むことです。目標とは「引き算」であると言われております。

陸上競技では「選手ファースト」という言葉がありますが、「スポーツを楽しむ人の障がい者ファースト」の心構えで、基本ルールを踏まえながら大いに楽しむ「ボッチャ競技」を広めていきたいものと考えている今日この頃です。

今後とも、指導者協議会の会員の皆さん、ご指導をよろしくお願ひ致します。

## 報告

### 東北ブロック若手障がい者スポーツ指導者研修会

障がい者スポーツ指導員（理事）高橋次男（秋田市）

今年度の東北ブロック若手障がい者スポーツ指導者研修会は宮城県障害者体育センターで平成31年2月9日（土）開催されました。

私は今後スポーツ指導者としてもっと多くの種目と技術などの指導方法（メンタル含む）を吸収したく参加させて頂きました。

テーマは『スポーツに参加する側・サポートする側の立場を、体験しながら学ぼう！』で実技研修内容は「卓球バレー」&「シッティングバレー」で、参加者は若手なので学生（東北福祉大学・東北文化学園大学・白百合大学）と東北各県の障がい者スポーツ指導員で、54名を4班に分け、ゲーム形式で卓球バレーとシッティングバレーを体験しました。

卓球バレー講師は宮城卓球バレー協会の2名で、参加者の多くは初体験者でしたので、卓球バレーとは、ルールと反則行為などの説明を受け、試合を楽しむためのエチケットとマナーを学びました。

シッティングバレーは仙台第二塩化リゾーム3名で、参加者の大部分は初体験で、体力と身体の柔軟性の必要な種目で、体育館は寒かったけど、熱氣で熱くなりました。

ルールは、立って行うバレーと同じですが、キーワードは【おしり】です。臀部が離床（おしりが浮く）すると反則になります（卓球バレーと同じです）。実技時間の大部分は、座ったまま前後左右に移動する練習でした。きつくて大変でした……。

今回の実技研修を体験して、卓球バレーは、ルールなど再確認できましたが、シッティングバレーは、もう少し体験してから普及などに頑張りたいと思いました。

今後自分が、体験できる研修会が、あったら参加したい！



### 秋田県障がい者スポーツ指導者協議会役員（平成30・31年度）

会長	米山 隆	横手市	理事	高橋 次男	秋田市
副会長	佐藤 茂仁	秋田市	理事	石黒 優	秋田市
副会長	進藤 雄一	秋田市	理事	佐藤 清俊	湯沢市
副会長	橋本 高史	湯沢市	理事	又井 誠	美郷町
副会長(兼)事務局長	佐藤 凉子	秋田市	理事	豊嶋 卵一	秋田市
理事	荻原 健一	秋田市	監事	及川まゆみ	横手市
理事	黒澤 英章	北秋田市	監事	佐藤 茂仁	(副会長)
理事	半田 武好	能代市	研修部長	進藤 雄一	(副会長)
理事	阿部勢津子	横手市	指導部長	橋本 高史	(副会長)
理事	谷内 祐子	秋田市	情報部長		

## 「東北ブロック障害者スポーツ指導者協議会研修会」 「秋田県障がい者スポーツ指導者協議会第2回実技研修会」

秋田県障がい者スポーツ指導者協議会 副会長 橋本高史

平成30年度東北ブロック障がい者スポーツ指導者協議会研修会が、1月26日（土）秋田県心身障害者総合福祉センターで開催されました。今回の研修会は午前と午後の2部構成で行いました。

午前は「データから見る障がい者スポーツ～地域における実態と隔たり～」をテーマに、公益財団法人笹川スポーツ財団の小淵和也氏に基調講演してもらいました。

小淵氏からは、2020年の東京オリンピックパラリンピックを目前にして、障がい児・者のスポーツ環境は改善されているのだろうか？という問い合わせがあり、調査結果から出た結果や課題について話がありました。その後、10人のパラリンピアンの顔写真を見て、名前と出場種目を当てるという問題が出されました。私自身ほとんど分かりませんでした。オリンピアンとの違いに驚かされると同時に、まだまだ認知されていないと感じました。

午後は「スポーツ指導における安全管理と対処法」をテーマに、秋田県スポーツ科学センターの森内厚志氏を講師にグループワークを行いました。

最初に安全管理についての講話があり、その後6人程度のグループに分かれてグループワークが行われました。慣れていない形態にもかかわらずすぐに打ち解け、自分が体験したヒヤリハット事例をお互いに発表し、その対策を真剣に話し合い、最後にみんなでシェアリングしました。

参加者からは、「今だからこそ地域でできる環境づくりをし、今後も安全に気をつけて活動していきたい」という感想が聞かれ、大変有意義な研修会となりました。

## 「障がい者スポーツ指導員の活動をして」

障がい者スポーツ指導員 石田美知子（南秋田郡）

主人が亡くなつて、今年で15年目になろうとしています。一人いた義母は当時元気でした。けれど活発性格から、アルツハイマー型認知症を患い、自分が主人の代わりに見るしかないと覚悟を決め世話をすることにしました。

世話をといつても簡単ではありません。まともなときもあれば、普通では考えられないようなことがたびたびで、目が離せないような状態が続きました。そういう時、友人からホテルで仕事をしないかと誘われて、何回か断ってはいましたが考えようによってはできるか。昼私が見て、夜息子夫婦がいるからということで、ホテルに夜勤めることができ、今に至っています。夜仕事でも、昼何もないからボーッとしていたんででしょうね。あるとき息子に、「あんたボケルよ。何かやった方がいいよ。」そう言わされました。そういうとき、村の広報誌の障害者指導員募集を見て、すぐ電話したのが始まり、私のスタートです。

それからというもの何か知らせが来るとすぐ一つ返事で、できてもできなくとも私にとっては、今まで味わったことのない満足感。障害者と接してみて、心の温かさ、勇気・元気・パワーとか、言葉で言い表せない（それに比べると健常者はわがままとしか言いようがない）。

いろんな大会が終わり、帰り道とても満足感を味わい、楽しかった、また頑張ろうと自分に言い聞かせます。

人の前に立って、とても勇気がいることですけれど、これも勉強かな。障害者指導員の資格を取って5年目になろうとしていますが、いつも初心者みたいで。もう少し自信をもって接することができればなと思うけれど、息子に言わせると「母さん、あんたの性格じゃ無理だね」と言わされました。

暇なときは寝ていないで、ぬりえ（水性ペン）を気に入って、毎日やっています。嫁さんが見ています「きれいだね。だんだん上達していくね」と言ってくれました。

大会に出かけるときは、手を合わせ「父さん、婆さん、爺さん行ってくるね。守ってくれよ」と言って出かけます。私が元気なのも障がい者関係の人たち、周りにいる温かい人たちに見守られているおかげと思っています。これからもできる限り協力します。

## クラブ紹介 秋田県身体障害者スキー協会

秋田県身体障害者スキー協会会長 進 藤 雄一 (秋田市)

私は、現在右大腿切断により日常生活では大腿義足を着用して生活をしております。

子供の頃より体を動かすのが大好きで夏は野球、冬はスキーなどを楽しんでおりました交通事故により義足を着用することになりもうスポーツは、行うものではなく、見るものと勝手に考えておりました。

しかし歩行などにも慣れてくるとやっぱりスポーツをしたいと思うようになり、当時障害者の青年部で、ソフトボール等のスポーツを行いましたが、下肢障害の有る自分は楽しいには違いないが何か物足りないというか完全燃焼できずにいました。

そんな時スキーをやってみないかと誘われましたが、入浴と就寝以外は義足を着用していたのですが、スキーの場合は転倒の際に義足を着けたままだと怪我が、重くなってしまいますので義足を外して片足で滑走するよう指導されましたこんな寒いところでしかも片足でスキーをするなんて、いやでいやで仕方ありませんでした。

日常入浴と就寝以外義足を着けて生活をしていたので、片足で立っていることがものすごく足の負担となりスキーを滑るどころではありませんでしたし、片足でバランスとることが大変でした。1m滑っては転倒、立ち上がってはまた1m滑っては転倒の繰り返しでした。それでも続けているうち徐々に滑走路距離が伸びてきました。

どうにか滑れるようになるとやっとスキーも楽しくなってきました。山を上から下に向かって滑る、いかにバランスを保つかそれが出来るともう最高に楽しいスポーツです。片足のハンディは、さほど感じませんそれどころかゲレンデで、心地よい汗をかくことができたのです。

今まで他のスポーツでは感じられなかった爽快感、満足感を感じることができました。

現在障害者のスポーツ競技も多種になってきましたその中に、ご自分に合った競技がきっとあると思います。

スキーに興味をお持ちの方であれば、用具等当方で貸し出すことも可能ですので是非ご一報ください、お待ちしております。

### 連絡先

〒018-1305 由利本荘市岩城二古字横砂子 1-102-603  
秋田県身体障害者スキー協会  
事務局 佐々木 稔

## 平成30年度 年会費納入についてのお願い

平成30年度会費納入いただきました会員の皆様、ご協力ありがとうございました。会費は、会の運営に関わる費用として使用されるものです。未納の方で当協議会の振り込み用紙を紛失された会員の方は、郵便局に備え付けの用紙でも納入出来ます。

納入先は次のとおりです。

### 納入先

秋田中央郵便局 口座番号 02210-7-94390  
秋田県障害者スポーツ指導者協議会

編集後記

今年度も広報チャレンジ発行で全ての事業が修了となりました。  
一年間ご協力いただきありがとうございました。初めての編集ということで、執筆いただいた方や情報部員の方には大変ご迷惑をおかけしました。  
いよいよ東京オリンピックパラリンピックまで残り1年半となりました。研修会で話された「今だからこそ地域ができる環境づくり」を来年度は心がけたいと思います。  
(橋本)